

令和3年度 園芸特産業関係功労者表彰 受賞者功績概要

1 小池 隆夫（茅野市）

昭和43年から寒天製造業に従事。伝統製法で角寒天を製造し業界において先駆的な役割を果たす。また、自社ホームページを開設して通販事業を始め、着実な事業拡大を遂げてきた。

平成15年以降、長野県寒天水産加工業協同組合の役員として、数々の消費拡大イベント開催や各種レシピ集・リーフレットの作成配布を通じて、「寒天の食べ方」「健康志向食品であること」を広くPRし業界に大きく貢献。自社でも天然寒天の情報を発信している他、福祉施設への一部業務委託により共生社会の推進にも寄与している。業界リーダーとして数々の積極的な取り組みが、長野県寒天産業の発展にご尽力された。

2 柴 壽（上伊那郡箕輪町）

県職員を退職後、果樹試験場時代から取り組んでいた「ナガノパープル」の裂果防止対策について、自らの園地での研究、実践により栽培マニュアルとして取りまとめ、全県で活用可能な高品質、安定生産技術を確立した。

また、長野県果樹研究会上伊那支部、JA上伊那果樹部会果樹研究会の顧問やワイン用ブドウの栽培指導に携わるなど地域に根ざした果樹振興の活動に奔走した。長野県里親農業者に登録し研修生を就農支援したほか、第4次箕輪町振興計画審議会、箕輪町グリーンツーリズム推進協議会の会長を務めるなど箕輪町農業の発展、さらに長野県果樹産業の発展にご尽力された。

3 丸山 真登（安曇野市）

昭和40年に就農し、長野県でいち早くシクラメン栽培を始めた。技術研鑽、情報交換等を目的に、「長野県シクラメン研究会（現在の「長野県鉢花園芸組合）」を発起人の一人として立ち上げ、組合長を務めるなど、組合の発展に寄与した。

また、全国に先駆けてミニ系シクラメンを導入し、サイズに合わせた培土選定や施肥等栽培技術を確立し、栽培技術を組合の若手を中心におしみなく伝えるなど、その活動が、長野県が全国一のシクラメン産地としての地位を築く一翼を担った。後継者とともに、現在も、ミニシクラメンの他ランキュラスなど新たな品目の生産にも積極的に取り組まれ、長野県花き産業の発展にご尽力された。